

# 神社をめぐる人びと

こころピアでは、近年玉名大神宮、伊倉南八幡宮、四十九池神社の資史料調査を行ってきました。そのなかでも、伊倉南八幡宮の神主家に伝わる古文書は、江戸時代を中心に735点も残されており、充実した史料群でした。本企画展では、伊倉南八幡宮を中心に、玉名における神職の足跡をたどりながら、江戸時代の神職・藩の役人・村の氏子たちの活動と、人びとの交流と学問、神社の経営を紹介します。

## 江戸時代の神主とその周縁の人びとの織りなすドラマ

### 玉名の江戸時代、神社をめぐる人びとの日常生活

#### 第1章 近世の宗教者たち

山伏、陰陽師といった今はない宗教者たちが近世の玉名にもいました。神社にも、社僧と呼ばれる神前読経を行う僧侶などがおり、現在とは違った宗教世界がありました。

#### 第3章 節頭を担う人びと

熊本県北部では祭礼のことを「節頭」といいます。江戸時代の節頭は、現在よりも大規模なものでしたが、藩政改革を受けて節頭の内容も変化します。ここでは、節頭の回数、費用、供物など細かな実態を紹介します。

#### 第5章 神職、なにを学ぶべきか

神職者たちは、幕府からは「神道専一」、藩からは「国学出精」を求められていたため、学問に熱心でした。玉名に他藩の国学者が来訪する機会もあり、幕末期には神職者からも尊王攘夷運動に参加する人が出現します。

#### 第2章 神主になるには

寛文5(1665)年、幕府の諸社禰宜神主法度発布により、神職をとりまく世界は新たな秩序に従って形成されていきます。幕府公認の神職の本所である公家へ入門する一派と、それに反対する勢力があり、熊本藩では両派併存の状態でした。

#### 第4章 神職のおしごと

主だった神職者たちは、藩によって組織化され、地域ごとに「五社組」と呼ばれる相互監視組織を構成しました。この組合の活動や、公の祈禱行事、神社の社殿の修復工事など、神職の行う仕事は多岐にわたります。

#### 第6章 維新の変革に直面する人びと

明治維新という社会変容に、玉名の神社とその関係者たちはどのように対処したのでしょうか。熊本藩の場合、激しい廃仏毀釈は行われず、比較的穏やかに神道化が進められました。

新発見  
初公開

鈴木重胤掛軸  
(伊倉南八幡宮蔵)



幕末期の国学者・鈴木重胤も江戸から宗像大社への参詣の途中で、伊倉を訪れ滞在していることが分かりました。江戸の国学者との直接の交流が偲べれます。重胤の直筆和歌など掛軸6点は今回はじめて展示します。

### 伊倉南北八幡宮祭礼図 (伊倉南八幡宮蔵)



当時の祭礼を描いた大変珍しい史料です。道沿いに棧敷席を設けていたり、社僧が祭礼に参加していた様子が描かれています。

#### ギャラリートーク

担当学芸員が企画展を紹介します。参加無料 予約不要

- 2月14日(日)
- 4月29日(木祝)
- 5月3日(月祝)

各10:30~ / 13:30~  
所要時間約40分

#### こどもの日 たんけん! 博物館

こどもの日の博物館無料開放にあわせて、博物館の展示をじっくり見ながら、クイズにこたえるイベントです。参加者には博物館特製缶バッジ(非売品)をプレゼント!

- 5月5日(水祝)  
9:00~16:00

随時受付 当日入館無料

#### 本居宣長掛軸 (玉名大神宮蔵)

